

2019年12月実績概要（メモ）

（2020. 1. 23）

本年の定修がほぼ終了した中、誘導品生産では前年割れがいくつか散見される。

1. 生産動向

イ) エチレン 564,400トン

前月比 +2.3% (+12,600トン)

前年同月比 +0.3% (+1,700トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 3.3 %	-
定修要因等	-	+ 2.1 %
能力増減	-	+ 0.1 %
稼働率変動	▲ 1.0 %	▲ 1.9 %
生産増減率	+ 2.3 %	+ 0.3 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月96.4% → 当月95.4% ← 前年同月97.3%

定修プラント：前月なし → 当月なし ← 前年同月なし

2019年暦年生産量 6,417.1千トン、前年比+4.2%

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数の増加とともに稼働率要因や定修規模の差からHD、PS、SM、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、AN、SBR、ベンゼンなどの14品目がプラス。LD、EO、BRの3品目のみは稼働率要因等からマイナスとなった。

前年比では、稼働率要因等からLD、PP、SM、EO、AN、SBR、BR、トルエン、キシレンなどの12品目がマイナス。HD、塩ビモノマー、EGなどの5品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LD、HD、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、日数の増加がある中、定修規模の縮小や稼働率要因が加わり、HD、PP、PSではプラス、LDはマイナスとなった。

前年比では、主に稼働率要因からHD、PSでプラス、LD、PPはマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、年末休暇に伴うユーザー側の稼働日数の減少から、LD、HD、PP、PSの4樹脂でマイナスとなった。

前年比では、LDは、フィルム分野の出荷がここに来て前年を上回ったこともあり微増となった。

一方、HDはフィルム分野の出荷が前年割れの状況にあるとともに当月は、中空成形分野、パイプ分野等も前年を下回りマイナス。PPは射出成形分野の出荷が辛うじて前年を上回るも、フィルム分野、繊維分野での減少もありマイナス。また、PSは前年が比較的好調であった電機・工業分野の出荷が減少したほか、雑貨・産業分野での出荷減少が加わり、前年を下回ることとなった。

ハ) 輸出

LD、PPでは1万トンを超える輸出となり、PSとともに前月比、前年比でプラスとなった。

HDは、LDと同様に此処数カ月は、輸出の増加を示してきたが、当月は一転して減少に転じ、前月比、前年比ともにマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LDで減少し、HD、PP、PSは増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLDは低下、HD、PSは上昇、PPは前月並みとなった。在庫水準としては、LD、HD、PP、PSともに高めとなっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		11月末	12月末
LD	▲ 4,100	3.6	3.4
HD	+10,800	3.4	3.7
PP	+24,400	3.0	3.0
PS	+8,800	1.6	1.7

以上